

成城大学

〒157-8511
東京都世田谷区成城6-1-20
入学センター
TEL 03-3460-9100
https://www.seijo.ac.jp/

「日本教育界の父」と称され、大正自由主義教育運動を先導した教育家・思想家、澤柳政太郎博士の精神を受け継ぎ、今日までに揺るぎない地歩を固めてきた成城大学。都心にありながら緑豊かなキャンパスに、幼稚園から大学・大学院までが共に学ぶ家族的な教学環境で、政財界から文化・芸術分野まで数多くの優れた人材が輩出しています。

成城大学の母体である学校法人成城学園は2017年の創立100周年を機に、学園の未来を創造するための指針「第2世紀プラン」を策定。成城大学でも「第2世紀の成城教育」を掲げ、個性尊重の教育のもと、グローバル社会を生きる「独立独行」の人物の育成を目指す教育改革を強力に推進しています。



戸部 順一 学長

「第2世紀プラン」のもと大学改革を推進。 “個性尊重の教育”に基づき、グローバル社会を切り拓く「独立独行」の人材を育成

困難なときにも、お互いを認め合う個性尊重の教育

教育改革、教育環境整備、地域・社会連携の項目からなる「第2世紀の成城教育」。このうち、教育改革の柱をなすのが国際教育と理数系教育、情操・教養教育の3つですが、戸部順一学長はその背景にある澤柳政太郎博士の思想、「個性尊重の教育」の現代的意義を指摘し、次のように語ります。

「学生一人ひとりの資質や個性を磨き、開花させることも重要ですが、それと同時に他者の個性を尊重すること。自己の創造性とともに、自分とは異なるものを受け入れるしなやかさ、協調性の両方を身につけてもらうことが成城大学の考える「個性尊重の教育」なのです。新型コロナウイルス感染症によって世界中が困難な状況にある中、学生たちには今こそお互いを認め合い、助け合う気持ちを持ってほしいと思います」

「国際教育」の核となる「SIEP」、成城国際教育プログラム

その戸部学長が語る成城大学の教

育理念は、語学力の向上だけでなく、実際に外国の文化に触れ、異文化と交流する経験を通じて「世界的な視野に立ち行動できる人材」の育成を目指す独自の国際教育にも息づいています。

その中核をなすのが、2017年度からスタートした成城国際教育プログラム「SIEP」です。各自の英語レベルと留学時期に合わせた履修モデルをベースに、専属教員による予約制の個別指導や、留学生と共に学ぶ英語開講科目などを受講。夏季または春季の休業期間を利用しての「海外短期語学研修」などもあり、実践的な英語力とともに、グローバル社会で求められる幅広い国際教養やコミュニケーション力を修得し、交換・認定留学や海外インターシップに臨みます。

「同じ国際教育でも、外国人と触れ合い、他者理解につながれば、それは情操教育の一つですし、外国語教育を通じて論理的思考能力を養うこともできます。特に本学は学生の留学に熱心で、専属教員による個別相談・指導などで準備学習をスムーズに行っていることも特徴です」と戸部学長は説明します。

さらに、海外インターシップと語学研修を組み合わせた主体的課題解決型プログラムも実施。現地で就業体験を行うだけでなく、企業研究や語学研修など事前学習から企業担当者に向けた事後報告会まで、約8カ月をかけて語学力と就業力を総合



「ディベート大会」の様子

データサイエンス科目で「理数系教育」を強化

高度情報化が加速するこれからの時代に対応するため、2015年度からデータサイエンス科目を開講するなど、人文・社会科学系大学としてはいち早くデータサイエンスに特化した「理数系教育」の充実を力を入れていきます。データサイエンス科目では6つの体系的な授業を提供し、文系理系の枠組みを超えて新しい技術を利用し自ら課題を発見・解決していく力を養います。科目の履修者は年々増加傾向で、開講6年目の現在、すでに多くの学生がデータサイエンスの知識・技術を学びました。所定の科目を修了した学生は「DS基礎力ディプロマ」および「EMSディプロマ」の2種類のディプロマ(認定証)が取得できます。

さらに、昨春よりデータサイエンス教育研究センターを開設し、学生の課外での活動もサポート。履修学

データサイエンス教育研究センターのミッション

人文・社会科学系の4学部からなる成城大学においても、数理学科のリテラシーを持ち、データ分析に詳しい人材の育成は教育目標の大きな柱の一つです。それぞれの分野の専門知識に加えて、データサイエンスの視点を兼ね備えた、次世代の社会を担う人材を育成します。

データに関心を持ち、データに基づき考え行動する学生を育てます

データサイエンスの人文・社会学科の分野への応用を推し進めます



生が外部のコンテストで優勝するなどの実績をあげています。

「情操・教養教育」がさらに充実 5つのサポーター団体が活躍

「情操・教養教育」の取り組みとしては、ワンキャンパスの環境を生かし、学部・学科を超えた交流が盛んです。

「特に力を入れていっているのが5つのサポーター制度です。これは学生が主体となつて他の学生を支援する取り組みで、このうちピアサポーターは得意分野を持つ学生が半年間の研修を受け、学習面で悩みを持つ仲間に対し、学生目線で解決のお手伝いをしていきます」と戸部

学長。ほかに就業力育成・認定プログラム⁽⁴⁾の受講者からなる「就業力サポーター」、留学生をサポートする「国際交流サポーター」、学生による選書ツアーやピリオパトルなどの活動を行う「ライブラリーサポーター」、障がいを持ち支援を必要としている学生の手助けなどを行う「パリアフリーサポーター」が活動しています。今年度はコロナ禍の影響により、各サポーターがオンラインツールを利用して交流会などの取り組みをしています。

また、少人数教育によるゼミナールは、学生の協調性や独創性、発信力などを培う貴重な機会ともなっており、文芸学部ヨーロッパ文化学科では、ゼミ学生の優秀論文をまとめた冊子を刊行するなど刺激的な取り組みが行われました。一方、経済学部と社会イノベーション学部は合同でゼミナール対抗の「ディベート大会」を開催。特定のテーマに沿って論理的なディスカッションを行いま

す。学部合同でこのような取り組みができるのもワンキャンパスならではの特色といえます。

世界的グローバル研究拠点など多彩で高度な研究を展開

より高度な研究・教育を行う機関としては4大学院研究科・10専攻に加え、日本民俗学の創始者・柳田國男より寄贈された蔵書を母体とする民俗学研究所や経済研究所、研究機構・グローバル研究センターなどがあり、独自の学術活動を展開しています。

特に、研究機構・グローバル研究センターでは世界に先駆けて開始したグローバル研究の蓄積をもとに、多様・多元・多層的な存在や価値観の併存を許す「相互包摂型社会」のあり方を提示するとともに、それを支える人と社会の「しなやかさ」(resiliency)の解明を目指しています。

「育ちたい」気持ちを伸ばす 充実の教育設備

成城大学は教育・研究環境の充実にも力を入れています。カフェのような居心地のよい空間が広がる「Lounge #08」は無料貸出PC、無線LAN、プロジェクトなどが完備。グループワークやレポート作成などで利用されているだけでなく、「国際交流サポーター」主催で留学生との交流イベントが開かれるなど、学生たちの交流拠点としての役割も



Lounge#08